

私の履歴

(社会工学系) 石見利勝

昭和63年度から環境科学研究科を担当させて頂いております。筑波大学へは、昭和62年9月から奉職させて頂いております。それまでは、建設省建築研究所に10年間お世話になり、昭和59年度からは、第六研究部都市防災研究室長を務めさせて頂きました。

専門は都市計画であります。昭和44年頃から都市整備マスタープラン、都市再開発計画等の立案作業に参加してきましたが、そのつど、都市計画における基礎的な調査分析結果と、実際の物的計画(設計)との間に大きなギャップのあることを痛感してきました。この分析と設計の間を少しでもつないでいきたい、設計者に少しでも具体的な設計情報を提供したい、というのが、研究を初めた頃の強い願いでありまして、その線上で、再開発事業における施設配置(商業施設の配置)に関する計画条件の抽出を狙いに、修士論文(昭和45年)、博士論文(昭和48年)をまとめました。その際に、売り上げ予測、地価負担力、等の重要な変数を探る過程で、人々の判断、行動を正確に把握する必要性を痛感し、行動調査、アンケート調査等の方法、その結果の分析方法、分析結果の信頼性、に関心を持ち、今も頭からはなれません。

昭和49年から東京工業大学社会工学科計画数理講座の助手として勤務しました。その頃から、人々の行動の調査分析、地価の分析、等の個々の調査分析を、全体的な都市設計の情報として総合していくための、システムモデルの構築という方向に研究を拓げました。

昭和52年建設省建築研究所に転勤し、都市開発研究室に所属致しました。当時、環境問題への関心が高まっており、私も建研において、都市開発計画立案の過程で、如何に環境条件への配慮をもち込み調和させるかを研究しました。環境問題を含めた都市の住み良さ、への関心から、都市の魅力条件の抽出、都市間比較、魅力的な都市の開発(観光開発を含めて)を研究し、一方、環境問題の延長上に、都市の安全、を位置づけ、研究しました。この頃の研究をまとめて、都市開発、都市の環境管理、と名づけ、現在も続けております。

昭和56年から2年間バンコクのアジア工科大学院(もとのSEATO工科大学)へ出向し、人間居住環境開発(Human Settlements Development)学科助教授として、講義、論文指導、ワークショップ指導、実習指導等を担当しました。この2年間、精力的に東南アジアをまわり、スラム整備、農村開発等の実態をつぶさに観察し、データを収集しました。その際に、「教える」「尊敬される」といった協力の仕方よりは、「一緒に考える、一緒にやる」、「好かれる」ということの大切さを認識しました。この時の経験、基本的な考え方にもとづきながら、「途上国の都市計画」をもうひとつの研究テーマに設定しています。

筑波大学へ参りましてからも研究テーマは変えておりません。ただ、多方面の努力によっ

て我国の平均寿命が飛躍的に伸びたにも拘らず、その事が、日本人の幸せに全然貢献していない現状を残念に思っています。定年後の人生も含めた「日本人の生きがい」に焦点をあて、従来の経済効率にひきずられた大都市集中から、生きがいからみた効率、にもとづく地方の開発、(都市問題と環境管理)のありかたを模索したいと考えています。